

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 中心グループによる研究経過

- 4月15日 恵教研 第一次研究協議会
研究計画の概要確認、授業者決定など
- 7月21日 第1回 低学年ブロック研究授業・研究協議
第1回 高学年ブロック研究授業・研究協議
- 8月25日 第2回 高学年ブロック研究授業・研究協議
- 8月26日 第2回 低学年ブロック研究授業・研究協議
- 8月29日 第3回 低学年ブロック研究授業・研究協議
- 9月9日 恵教研 第二次研究協議会
石教研専門部会 第二次研究協議会への指導案交流・役割分担確認
- 10月13日 石教研専門部会 第二次研究協議会の事前研修会
- 10月14日 石教研専門部会 第二次研究協議会
- 2月10日 恵教研 第三次研究協議会
研究の成果・課題・次年度研究計画について

(2) 中心グループでの研究成果

【成果】

<低ブロ>

- ・導入の問題提示を工夫した。児童の興味をひく問題設定を考えた。「やってみたい」「おもしろそう」と児童からつぶやきが聞こえ興味をひく問題であった。

<高ブロ>

- ・普段通りの授業づくりを心がけ、実際にくじをひく活動から導入するなど、学習意欲を高めたり、学習内容への気づきを促したりする工夫がされていた。これにより、一人一人が前向きに問題解決に向かう姿が見られた。
- ・教科書問題の数値を変えることで、どの子も考えを持つことができ、多様な方法の交流につながった。

【課題】

<低ブロ>

- ・ワークシートのドット図やお助けボードの使い方の説明が不十分であったため、混乱している児童がいた。
- ・作図の時にコンパスを使用させたが、出来上がった後に長さの確認をするために使わせた方が良かった。
- ・最後に、作った3種類の二等辺三角形を重ね合わせて中点を通っていることを視覚的に確認させるとよかった。

<高ブロ>

- ・既習事項との相違点に着目させ、未習の内容に方向づけするのが課題の役割であるなら、学習内容の焦点化ができる課題の文言にはなっていなかったといえる。文言の吟味の必要があった。
- ・前時の学習内容が部分同士の比だったのに対し、本時は全体と部分の比であることに目を向けさせる必要があった。

(文責 高倉 秀晴)